


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 新年の抱負
2. 第66回国立病院総合医学会の受賞者
3. 接遇研修
4. 新駐車場完成

新年の抱負

鳥取医療センター 院長 下田光太郎

新年明けましておめでとうございます。皆様に於かれましては新年の誓いを新たにされたことと存じます。低迷する日本経済や一昨年の東日本大震災から未だ完全には立ち直れない中、昨年末に政権が変わり国民はそれぞれに新政権に期待せざるを得ない状況となっています。今年はどんな年になるか大いに期待されるところです。さて鳥取医療センターは昨年5月に新重症心身障害児(者)病棟が完成、さらに昨年末には重心病棟跡地に150台収容の南駐車場が完成しました。現在工事中の医療観察法病棟が2月に完成予定で、正面玄関防風雨除けの玄関改修工事が完了すると鳥取医療センターの第2次建物整備計画が完成します。これでハード面での大規模な整備は完了となります。一方2月から17床の新医療観察法単独病棟の運用、4月から電子カルテの導入、また地域移行の継続、病院経営の健全化、医師・看護師不足の解消等々、今まで以上の難題が待ち構えています。これらは建物整備以上に医療の質や内容を問われる事となります。これらの難問解決に職員一丸となり本年も地域医療の一翼を担いつつ安全安心な医療を提供できるよう努力していきたくと思っています。

さて昨年は京都大学山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞され医学界のみならず国中がすっかりiPSブームに沸いた年となりました。何せ自分自身の皮膚の一部からどのような細胞にも分化できる幹細胞が出来るなんて、まるで孫悟空が自分の毛から分身を作るようで、夢のような話が現実になろうとしています。これからiPS細胞を利用した創薬医療や再生医療の発展が期待されています。創薬という面では新薬を患者さんに投与する前にその効果を患者さんのiPS細胞で確認でき、新薬の開発に欠かせない手段となることが予測されます。また再生医療に関しても神経細胞、皮膚細胞、心筋細胞、筋細胞、すい臓のベータ細胞、肝細胞、血小板、等々、既に世界中の研究室でいろいろな試みが行なわれています。ただ実際これらを人に応用するためにはまだまだ乗り越えなければならない多くの壁が立ちはだかっています。これは今最盛期を迎えつつある遺伝子医学や細胞科学が個別の遺伝子や個々の細胞からなる様々の要素から結果を推論する線形理論から成り立っているためとも考えられます。生命現象や脳科学は要素還元主義を基礎とする線形理論では到底説明出来ない現象です。それを説明するためには複雑系理論の確立が期待されています。本年はiPS細胞を契機として生命科学の更なる発展が期待されるようですが、その発展のためにも複雑系理論による脳科学や遺伝子医療の解明に向けた糸口となるべき新たな展開がなされることを期待しているところです。

皆様本年もよろしくお願ひいたします。

○ 職場紹介 ～4病棟～ ○

看護師長 清水 泰史

4病棟は55床の男女混合の重症心身障害児(者)病棟で、24年5月の開棟以来1日平均54.5名の患者さんが入院中です。年齢は7歳から74歳と幅広く、小児看護・成人看護の研鑽が求められます。また全員が生活の全ての場面に看護援助を必要としますが、ナースコールできる方、何らかの方法で移動できる方、自分で食事ができる方、トイレが使える方もおられるので、今ある機能を維持増進する支援が、私達の重要な役割です。移動できる方には一面をマットで保護した部屋を作り、トイレに最も近い配置にするなど構造的な工夫もしました。また、安全な環境整備と美味しく食事ができるための摂食嚥下療法にも力を入れています。



スタッフは看護師23名、療養介助員4名、看護助手4名です。看護体制は介護士を含む3交代です。医師・看護師の他に児童指導員、保育士、理学療法士、養護学校教員など多くの職種でチームを組み、医療・看護・療育に取り組んでいます。

新しい病棟では、気持ち良くいい仕事をしていい看護を提供したいと考え、フィッシュ哲学の考え方を取り入れています。病棟に音楽を流し、落書き板を設置し、遊び心満載です。直接のお話しや手紙でご家族との交流も大切にしています。今後も様々な行事や笑顔の触れ合いを通して、患者さんの24時間快適な生活支援と日々の安寧を目標に、職種間の連携を強くして取り組んでいきたいと思ひます。



クリスマス会のひとこま

○ 職場紹介 ～精神科心理部門～ ○

主任心理療法士 田中 聡

現在、精神科心理部門には5名の心理療法士が在籍しております。当院での心理療法士の仕事の場は幅広く、入院・外来患者様への心理面接や心理検査の他、精神科デイケアやAOT(積極的訪問チーム)、医療観察法により入院している患者様への心理治療などを多職種と連携して担当しています。さらに、行政との連携として地域の乳幼児健診への心理相談員の派遣にも応じています。

精神科にはさまざまな症状や問題を抱えてこられる患者様がいらっしゃいます。心理療法士は、主治医の指示のもと、心理面接を通じて患者様と話し合いながら症状や問題が改善に向かうよう一緒に考えていきます。また、患者様の治療上の必要性にあわせて心理検査を行ったり、病気の症状や対処法について心理教育を行ったりすることもあります。患者様の抱える症状や問題は一人お一人複雑であり、より良い支援を提供するために心理部門内での新人

教育や勉強会の実施など、日々の研鑽を心がけています。

患者様が回復してこられたお姿を拝見するのは、他職種同様、私たち心理療法士にとっても大変嬉しい瞬間です。これからもさまざまな職種との連携を大切にし、患者様にとって最適な医療の提供に貢献できるよう努めていきたいと考えています。



● 第66回国立病院総合医学会の受賞者紹介 ●

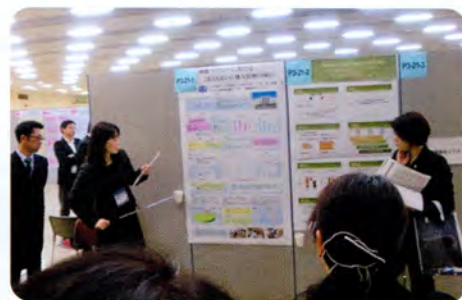
看護師長 中山 雅子

平成24年11月17日に第66回国立病院総合医学会にて「褥瘡ラウンドにおけるDESIGN-R導入の検討」についてポスター発表を行い座長賞をいただきました。

私の発表したグループは褥瘡関連でした。手術室の体圧分散についての研究、ラップ療法の症例報告、電子カルテの活用等各施設での褥瘡の予防・改善の取り組みがよく分かる内容でした。私は、褥瘡対策チーム委員会の経過報告とDESIGN-R導入の効果についての発表を行いました。座長よりDESIGN-R導入の過程で、基礎知識をコアナースから各病棟の看護スタッフへ伝達し活用するために褥瘡対策チーム委員会で取り組んだこと、日頃の委員会の活動の積み重ねが大切だと共感したこと、他施設でも同じような取り組みをしているが、なかなか導入困難な状況があり活動内容が参考になったこと、など評価をいただきました。褥瘡ラウンドの実施（DESIGN-Rの導入）を各病棟のコアナース、スタッフの協力で勧める事が出来大変感謝しています。ポスターは日頃の褥瘡ラウンドの活気が伝わる写

真や、改善策への取り組み内容を具体的にまとめ、全体を明るく爽やかなイメージにしたことが良かったと思いました。私自身もポスターをまとめていく過程で褥瘡対策チーム委員長として今後の課題など整理することが出来ました。また褥瘡対策チーム委員会副委員長の11病棟大井副看護師長も発表を行い鳥取医療センターの褥瘡対策チーム委員会活動のPRを図ることが出来ました。

今後も褥瘡対策チーム委員会のがんばりを発表する場を持ち、更に褥瘡対策チーム委員の志気を高め褥瘡の予防・改善に取り組みたいと思います。



臨床検査技師 青木 恵子

冬晴れのきりっとした空気に肌寒さを感じながら超満員のポートライナーに乗り「もしかして、みな学会参加者?」学会場・神戸国際展示場に到着。まずは、開会式で学会長の挨拶を拝聴し、思いを新たにポスター会場へ行き緊張の思いでポスターを掲示しました。

その1時間後、研究テーマである「手指衛生実施効果としてのATPふきとり測定とスタンプ培地法との比較」について発表し、幸いにもベストポスター賞を戴きました。

初めてのポスター発表で、いろいろな方のご指導を頂きながら試行錯誤でポスターを作りました。できあがったのは、神戸に出発当日でした。発表が終わって

ほっと一息、ゆっくりと会場いっぱいには張られたポスターを観てまわりました。同じサイズのパネルを与えられているのですが、それぞれ個性的で聴衆に理解しやすい工夫がされており、今後ポスターを作る際の参考になる事がたくさんありました。また、ポスター発表は口演発表と異なり発表の前後に、より気軽に情報交換・質問ができその有用性を痛感しました。

今回の学会に参加したことで、日常では気が付かない視点での考え方、新しい話題の習得、また、懐かしい方とお会いできたことなどとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

作業療法士 中島 直

この度、神戸で開催されました第66回国立病院総合医学会にて「意思伝達装置でのメールが、交流と楽しみの再獲得につながった筋萎縮性側索硬化症の一症例」という題名でポスター発表をさせていただきました。発表に協力してくださった患者様、各スタッフの皆様のお力添えによりベストポスター賞をいただくことができました。本当にありがとうございました。

今回の発表は、筋萎縮性側索硬化症の患者様が病棟内で意思伝達装置を用いて交流を再開していくというものでした。この発表を通して病棟という限られた生活空間で意味のある生活・価値のある生活をいかにして構築していただくのか、リハビリテーション職種としてより深く考えていかなければならないと感じさせられました。また、その中で病棟生活の要である看護

師の方々と、どのように協力して患者様の生活の質を向上させていくのか、ということは難病患者様へのリハビリテーションアプローチとしてもとても大切なものであり、お互いの業務を尊重しチームアプローチの中で患者様と関わっていく重要性を再確認することができたように思います。

発表という形で日頃の業務をまとめさせていただくことで、患者様の生活を考える上でリハビリテーションスタッフ、そして看護との協力は欠かせないと再認識させていただくことができました。今後も患者様の機能面に限らず生活や楽しみという視点からも作業療法を展開していければと思います。ありがとうございました。

● 平成24年度接遇研修を終えて ●

教育担当師長 花 倉 由 紀

「選ばれる病院 生き生きと働ける職場を目指して」というテーマで、5回目の接遇研修を開催しました。この研修は、選ばれる病院になるために「職員一人一人の接遇が鳥取医療センターの評価に大きくかかわってくるという自覚を持って行動できる」ことを目指し、今年で3年目になります。会場は新しく建った重症心身障害児(者)病棟の4階の大会議室で、天候にも恵まれて、オーシャンビューの日本海を眺めながら行うことができました。研修対象者を、新採用者と配置換え者及び希望者として9月15日と10月27日のどちらかに参加してもらいました。医師、看護師、リハビリスタッフ、心理療法士、児童指導員、療養介助員など2日間で70名の参加がありました。当日初めて顔を合わせた人もアイスブレイクを取り入れたことで、話しやすい雰囲気をつくりリラックスして研修をスタートすることができました。

この研修は、インフォームド・コンセントの大切

さとコミュニケーション能力の向上をポイントに、グループワークとロールプレイによる体験学習で研修を組み立てています。題材として、日頃気付かない無意識な行動を振り返ることやクレームが発生しそうな対応場面の事例を取り上げ、職員の一員としての取り組んでいることを患者や家族にとってどのようなを含めて検討していきました。研修終了後「研修1日があっという間だった。他職種の人たちとグループワークしたことで親睦が深まり有意義だった」「情報を正確に伝えることの難しさ、共通理解するためには、復唱、確認する必要がある」「相手の立場に立ち行動し、声をかけるように気をつけたい。接遇は難しいと感じた。」などの感想がありました。研修を通して日頃の自分を振り返り、最後に各自が「明日からの行動目標」を決めて発表し、他の参加者から応援の拍手をもらい、今後の頑張りが期待できる研修となりました。



● 接遇研修に参加して ●

11病棟看護師 田 中 翔

私は、今年4月に岡山医療センターより転勤して参りました。今回の研修では、接遇に関する講義、図や絵を用いて相手に伝える体験学習、またクレーム事例を通して問題点と改善策をグループワークで検討し発表するという内容でした。

接遇研修に参加して、講義を聴き、接遇については概ね出来ていると思っていました。しかし、言葉遣いや依頼の方法、電話対応の方法等、不足している部分や知らなかった部分も改めてあると感じました。体験学習では自分の伝えたいことを正確に相手に伝えることの難しさと受け取り方も個々によって違うと実感しました。

グループワークでは、病院などの医療機関で実際にあるクレームを通して、小グループで話し合い、日常業務の中にあるリスクや適切な対応方法を考え

ることができました。話し合った改善策について、講義で習った内容や知識も活用しながら、ロールプレイングを行うことで、相手に伝えるコミュニケーション技術を高めることもできました。

4月より、精神科病棟に配置となり、新しい領域で知識や技術が十分ではないですが、患者様の精神状態をアセスメントし、日々受け持ちをさせていただいています。患者様の中には、コミュニケーションをとることが難しい方もおられます。研修で学習したことを活用したり、日々の中で研修での気づきや心がけを意識しながら働いています。今後の目標として、患者様や家族の対応時は、相手の立場になって物事を考え、不安や不快な思いをさせないように心掛けていくことで、確実に適切な接遇ができるように頑張っていきたいと思えます。

● 新駐車場完成 ●

管理課長 川村 豊 昭

現在、病棟等更新築整備工事が平成25年3月中旬に完了する予定ですが、この度、旧7・8病棟跡地に職員用駐車場が完成しました。

患者さまをはじめ、職員のみなさま、さらには物品搬入の取引業者の方々には大変ご迷惑をお掛けしましたが、完成検査の後、12月4日より使用可能となりました。

完成を待っていたかのように、いつもより早い冬将軍が北から鳥取を襲い、病院も6～7センチの積雪となりました。今までの駐車場はもう一段上にあるため、昨年末までだと坂道で立ち往生する車もあり、雪かきや立ち往生の車を押さなければならぬ場面もありましたが、完成した駐車場のおかげで作業することもなく、スムーズに出勤・駐車できるようになりました。

また、病院への入り口も駐車場に面しているため夜勤のため出勤する看護師さんにも安全であり便

利です。

冬（雪）本番はまだまだこれからです。患者さまが不便のないように職員の方々は職員駐車場（北・南側）の利用をお願いいたします。

なお、整備工事は今年度中予定されています。今後もみなさまにはご迷惑をお掛けすることもあります。ご協力をお願いいたします。



● 霊安解剖棟安全祈願式 ●

庶務班長 小田 原 栄

霊安解剖棟新築工事が平成24年11月下旬に竣工したことに伴い、安全祈願式が11月29日（木）11時15分から齊主三津神社宇田川宮司のもと幹部職員等が出席して執り行われました。

旧霊安解剖棟は敷地の片隅にある長い渡り廊下で繋がった不便な所で、冬場には寒風や雪に悩まされていました。新霊安解剖棟はサービス棟に隣接した旧重症心身障がい児（者）病棟（旧7・8病棟）跡地の一角に新築されたことから、以前より環境も整備され便利になりました。



● 成人式・成人を祝う会 ●

療育指導室 保育士 西村典子



平成24年度の成人式・成人を祝う会が11月7日にC棟4階の療育訓練室で行われ、3病棟2名・通園(みんなの広場)4名の方が成人になったことを喜び、皆でお祝いをしました。

鳥取副市長をはじめとする来賓の方の御臨席を賜り、院内からもたくさんの方々に出席していただきました。今年も昨年に引き続き成人式と成人を祝う会にわかれて行われました。

成人式では、成人者入場に続き来賓祝辞、記念品・花束贈呈、御家族が20年間大切に育てられた思いが伝わる家族挨拶で閉式の辞となりました。

祝う会では、成人者6名の方の20歳までの歩みを写真と家族からのメッセージでスライド上映して振り返りました。

続いてバンド名ギフト3名による歌と演奏のプレゼントがありました。「Yell」「ルージュの伝言」「果てない空」「アゲイン」の熱唱に聞き入り、最高に盛り上

がったところで、掛け声と共に花を上に向けて終了しました。最後に皆で記念写真を撮って成人式・成人を祝う会を締めくくりました。今年は新しい建物での御祝いとなりましたが、6名の方が皆元気に参加する事が出来、また参加して下さった会場の皆様の盛り上げで開催する事が出来ました。関係者の皆様、御協力ありがとうございました。

● 神経・筋疾患研修会報告 ●

1病棟看護師 坂本由紀恵

私は10月24日～26日までの3日間、広島西医療センターで開催された「神経・筋疾患研修会」に参加し、筋委縮性側索硬化症・パーキンソン病・筋ジストロフィー・脊髄小脳変性症などの神経・筋疾患の病態や疾患に対する看護また難病に共通する看護介入・在宅ケア等について学びました。私は神経・筋難病病棟に配属となり半年が経過しましたが、研修に参加したことで現在関わらせていただいている患者様への看護は本当にこれでよいのか、自分自身の看護を見つめ直す良い機会となりました。患者様にとって療養生活の場となっている病棟で、看護師としてお世話させていただく上で大切なことは何かを振り返ることができました。疾患に対して看護処置や観察をするのはもちろんですが、患者様の精神的または社会的な苦痛をいかにケアしていくべきかが重要であることを再認識しました。そして、その人らしさが最大限に尊重されるよう、家族を含めた患者の「人生」そのものに寄り添った「全人的ケア」が最も大切であることを学ぶことができました。

患者様の中には、看護師に対し、将来についての

多くの不安や看護師に対しての期待や希望を訴えられる患者様もおられます。しかし、患者様と向き合いたい気持ちはありますが、患者様のすべての要望に答えることが今の私には難しく、自分自身の中で葛藤していました。今回の研修でこのことについて他施設の研修生と情報を共有・共感する中で、看護師の業務を中心に考えるのではなく、なぜ患者様がそのような思いを表出されるのか、看護師側には改善するべき点はないのかと考えることが大切であると感じました。意識が鮮明でありながら生活をしていく上で様々な欲求を自分で満たすことが出来ず、私たちが当たり前に行っている日常生活動作を自分自身ですることが出来ない難病患者が感じるもどかしさに対し、看護師がどれだけ寄り添うことが出来るかを考えた場合、患者に対する見方や感じ方も少し変わってくるのではないかと考えました。

神経・筋疾患研修会は自分自身にとってとても有意義なものとなりました。今回得たものを今後の自分の看護または病棟全体で活かすための手段を、病棟スタッフと考えていきたいと思っています。

● 病院忘年会 ●

庶務班長 小田原 栄

病院忘年会は12月13日（木）19時から白兔会館で開催された。病院忘年会を開催するに当たり忘年会準備委員としてコメディカル部門から曾根士長、野崎士長、看護部門から国森師長、戸野師長の推薦をいただき、庶務担当として庶務班長を加えた合計5名で忘年会準備委員会を2回開催した。委員会では委員から活発な意見が出され内容も短時間で効率良く決まった。一番気にかけていた司会者の人選についても、リハビリテーション科から澤田理学療法士、井芹理学療法士の若手2名を推薦いただけたことは大変有り難かった。

下田院長は挨拶の中で今年が一番の出来事は重症心身障がい児（者）病棟が完成したこと、精神病棟入院患者の地域移行が出来そうな状況になったこと及び多くのスタッフが人手不足で頑張ってもらって

いるが是非、職種間の横の繋がりを強くしてもらいたいと話された。

30分程度の歓談後、余興が開始された。最初に足羽看護師によるダンスから始まり、ジャンケン大会、リハビリテーション科による2つの出し物（エグザイル他）の後、最後にビンゴ大会が行われ終始盛り上がり終了した。忘年会では日頃、話の出来ない職員と話が出来るため、今年の出席者は65人でしたが、来年以降もより多くの職員に出席いただき、職種間の垣根を越えた親睦の図れる忘年会になれば良いと思いました。

最後に忘年会の開催に当たり、余興の景品等のため幹部会議のメンバーの方から沢山のカンパをいただきありがとうございました。



外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成25年1月1日現在

			月	火	水	木	金
内科	循環器		松本		松本	松本	松本
	呼吸器		山本	山本	山本		
神経内科		1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充
		2	下田	下田	金藤 (膝下外来)	土居充	土井あかね
		3	小西	土井あかね	齋藤	小西	井上
		4				三島	
小児科			中野	小松	赤星	中野	赤星
精神科	初診 (完全予約制)	診察室6		休診	坂本	幡	高田
	再診	診察室1	高田	助川	土井清	高田	柏木
		診察室2		坂本		助川	土井清
		診察室3		幡	幡		坂本
		診察室5		池成		林	
		診察室8		岩田	岡田		
外科			古澤	古澤	古澤	古澤	古澤
専門外来	睡眠外来 (完全予約制)	精神科5	坂本		高田		
	神経内科 (予約制)		失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害
	小児科 (予約制)		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野/関		
				予防接種 15:00~16:00	第3水曜日の予防接種は予約なし		
リハビリ入院相談	地域医療連携室		金藤	金藤	金藤	金藤	金藤

◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地

◆電話 0857-59-1111

◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分

◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分 (睡眠外来の受付時間は午前中です)

◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。

◆ホームページ <http://tottori-iryo.jp/>

◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713